



月刊 部員新聞

2006年12月
第14号

編集・発行 Unit

プロとは

最近何十億という金額が動くプロスポーツ選手の契約の話題で持ちきりですが、今回はプロについて考えてみたいと思います。

プロの意味

もともとプロという言葉は「プロフェッショナル」の略で、

- ①専門的。職業的。
 - ②専門家。職業としてそれを行う人。
- という意味があります。(※1)

ちなみに反意語は「アマチュア」であり、「職業としてでなしに、趣味や余技として携わる人。」という意味があります。(※1)

つまり専門家として活動している人はプロ。職業とあることを行っている人もプロ。趣味で行っている人はアマとなります。

専門家としてのプロ

専門家とは、「ある学問分野や事柄などを専門に研究・担当し、それに精通している人。」という意味があります。(※1)

スポーツ界には競技者はもちろん、競技者を支援する様々な人たちが関わっています。そんなスポーツ界

において専門家というのと、次の様に定義づけることができるのではないのでしょうか。

「その時点での自分の研究結果として最善の方法で、競技者を支援することができると、または競技者自身。」といえるのではないのでしょうか。

職業としてのプロ

職業とは「日常従事する業務。生計を立てるための仕事。生業。なりわい。」という意味があります。(※1)

競技者においてプロというとそのスポーツを行うこと自体が業務であり、生計を立てるための仕事であるという事になります。

さて、ここで問題です。生計を立てるための仕事としてスポーツをしていることが明らかでない競技者（プロ野球、Jリーガー、力士など）は職業としてのプロといつて何の問題もありません。チームであつても個人事業主の集合体となります。観客からも入場料などを徴収し、そのスポーツ全体が興業として成り立っているわけ

です。

では企業との契約金などにより、競技生活を行っている競技者の場合はどうでしょう。そのスポーツ全体が興業として成り立っているかは別にしても、その競技者は競技成績を向上させることにより、企業からの契約金も増える。彼らも立派な職業としてのプロではないかと思えます。

それでは企業に社員として所属し、競技生活を行っている競技者の場合はどうでしょう。その様な競技者ほどちらかというスポーツを行うことなどというよりも、企業がその人を雇用することで生計を立てています。職業

としては会社員となります。

たとえその企業内で一切仕事をしていなくても、失礼ではありませんが、仕事の能力で採用されたわけではなく、スポーツの能力で採用されたとしてもです。

この場合は職業としてのプロといえるのでしょうか。

その他のプロ？

各種スポーツ団体には公認プロというものがあつます。その団体がプロとして認めるというだけのものです。厳しいテストを課されるものもあれば、公認大会で入賞すれば良いというものまで様々なレベルがあつます。しかしこのプロは名称としての意味合いが強く、もちろんその

スポーツにおいてプロとしての条件

- ①常に研究心、探索心を持ち続ける専門家であること。
- ②その専門性を職業としていること。
- ③自分のことだけでなく、他人のこと、社会のことを考え活動できる人格の持ち主であること。

Unit 代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部員となって選手を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のトレーニングコーチ。

ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または unit@mbd.nifty.com

※1：広辞苑第五版より

この二つを兼ね備えて初めてスポーツにおける本当の意味でのプロなのではないでしょうか。

- ①常に研究心、探索心を持ち続ける専門家であること。
- ②その専門性を職業としていること。
- ③自分のことだけでなく、他人のこと、社会のことを考え活動できる人格の持ち主であること。

スポーツにおいてプロというものをまとめてみると、やはり次のようになるのではないのでしょうか。

それではプロとは

団体内では必要なものかもしれませんが、今回のプロの定義からは少し外れてくるのではないのでしょうか。